

新大門商店街「エココイン事業を活用したリサイクル活動」

1. 取り組みの概要

- 新大門商店街振興組合（名古屋市中村区）では、平成 11 年の名古屋市「ゴミ非常事態宣言」を受け、リサイクルステーションの立ち上げのほか、My 箸、タッパー持ってお買い物、エココイン（Omon コイン）発行など地球にやさしい商店街に取り組んでいる。
- 現在は、名古屋市中村区における高齢化の加速に合わせて組合員の高齢化も増し、福祉重点の「福祉と環境にやさしい商店街づくり」へと変化を目指している。

2. 商店街概要

商店街名	新大門商店街
所在地	名古屋市中村区羽衣町
組合数	79
URL	http://omon.cup.com/

3. 取り組みに至る経緯・背景

- ✓ 新大門商店街では、11 年の名古屋市「ゴミ非常事態宣言」を機に、商店街から排出される資源ごみを自主回収し再利用するリサイクルステーションを設置している。
- ✓ 商店街におけるリサイクルステーションの設置は、当時としては全国に先駆けた商店街事業として脚光を浴び、全国から視察に訪れることもあった。
- ✓ 商店街におけるリサイクル活動には商店街女性部（女性店主やおかみさんら）が諸手を挙げて賛同し、空き瓶や空き缶、トレーなどを持ち寄るようになった。
- ✓ 平成 12 年には名古屋市補助金を活用し「大門商店街情報案内システム」（通称・大門ナビ）を街角 4 か所に設置稼働し、大門ナビを活用した商店街活性化を目指し始める。
※ 大門ナビとは、新大門商店街の成り立ちやグルメ情報、周辺の見所情報、エコ商店街の仕組み案内が掲載されたタッチパネル方式の情報端末である。
- ✓ 当時の副理事長（星野礼二氏）や青年部長（山本幸太郎氏）の発案のもと、平成 14 年には金属製のエココイン「Omon コイン」（4 万枚発行）を独自製作し、エココインの機器に投入すると商店割引券などのラッキーチケットが当たる仕組みを採り入れることとなった。早稲田商店街のアトム通貨を参考としている。
- ✓ また、新大門商店街では、消費者がリサイクルステーションに資源ごみを持ち寄ると「1 コイン（10 円相当）進呈」といったエココイン流通の活性化策を採り入れたたり、エココイン（ラッキーチケット）協賛店舗では簡易包装の取り組みをはじめ、マイお買い物袋（八百屋）やマイ箸、マイ容器の持参（飲食店等）した消費者に対して「1 コイン提供」などと環境保全の促進につながる取り組みを採り入れている。

[写真] エココイン



[図] エコ活動内容



(出典) エコ活動内容は、新大門商店街ホームページより抜粋

[図] エココイン (ラッキーチケット) の協賛店

店舗名称 (50音順)	ラッキーチケット
ちびっこいわたや	消費税 5% サービス
お弁当の榮鶴	お弁当各種 100円引き1枚1個限り
菊屋貴金属店	修理代金より 100円引き
寝装のごとう	お買上の代金15%引きとエココイン5枚サービス!!
コミュニティマートバイ	クルクル上白糖1Kg 1袋100円
サロンドモア	粗品進呈
シックふみ	20% OFF
リビングゼンタたぬき屋	消費税 5% 引き
トキワ園書店	文具事務用品 20% OFF
友美薬局	お買い上げ商品の 10% OFF
おいしいチキンの鳥勝	お買い上げ金額の5%OFF、但したまごは除きます。
時計・宝石・ハセガワ	時計・宝石・メガネ 10% OFF
八龍	ギョウザ 1人前 サービス
風来坊大前店	手羽先 1人前 サービス
不二家大前店	洋菓子 10% OFF
JeansShopFujiyama	5,000円以上のGパンお買い上げの方にFUJIYAMAの3,000円分の商品券を進呈します。
ブティックモア	粗品進呈
アウトレットショップほっぺ	消費税 サービス
美濃幸ラ・クロシェット	5,000円お買上げの方に3,000円のお買い物券を進呈
元町軒2号店	ギョーザ 1人前 サービス
森本屋履物店	お買い上げ金額の 10% OFF
龍文堂印房	お買い上げ金額の 10% OFF
レ・ボン・パン	食パン類 50円引き

(出典) 新大門商店街ホームページより抜粋

4. 取り組み内容

(1) 取り組みの実態

- ✓ 現在のエココイン活用の取組実態は、名古屋市補助金で採り入れた 4 つの大門ナビは助成廃止とともに商店街からすべて撤去されて、消費者のエココイン利用機会が縮小するなか、商店街では「金曜得売」（毎週金曜日に「金曜得売」看板が掲示された店舗でお得なサービスを提供し、エココイン流通も採り入れている）活動を通してエココイン活用に取り組んでいる。
- ✓ また個店単位で従前通りのエココインを活用したりサイクル活動（リサイクル商品の販売やエココインによる購入機会の提供など）を展開しているが、数店舗に限られる。

[写真] エココイン活用の活動実態（左：商店街、右：個店）



※右：個店とは、小売店舗で販売されているリサイクル小物品

(2) 事業運営上の問題点とその対応

エココイン事業について

- ✓ 上記の通り、エココイン事業の縮小傾向にある背景には、ラッキーチケットなどの協賛小売店舗におけるエココイン活用機会の提供の縮小・撤退と合わせて、消費者におけるエココインの重量感（10円玉など硬貨に比べた重さ、カード・ポイント社会の浸透など）とともに時代に合った硬貨持ち歩きに対する負担感がある。
- ✓ さらにエココインの現金化などの取扱事務手続の煩雑さ（エココイン交換窓口への持参など）が敬遠要因となっている。

リサイクル活動について

- ✓ リサイクルステーションによる分別収集活動は、その後の容器包装リサイクル法等の法制度改正（平成 18 年）など社会ルールの変化とともに、人の意識の変化（分別意識

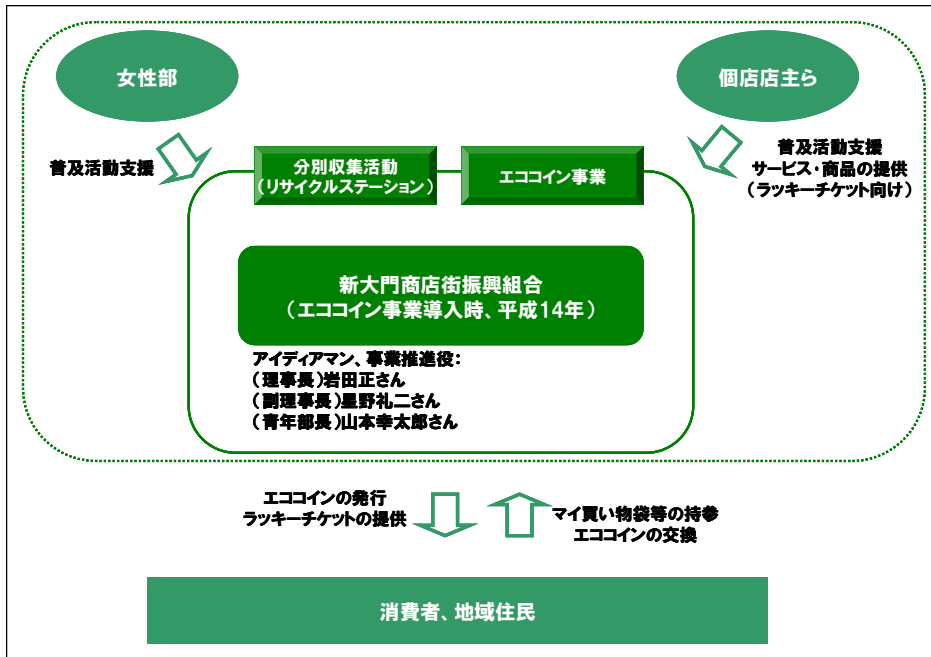
の定着)により商店街独自事業としての役目は終息に至っている。

- ✓ またリサイクル活動の原動力を担っていた商店街女性部（おかみさんら）の事業に対する目的意識（やる気）が薄らぐ同時に、商店街店主の高齢化（70代を迎えるなど）に伴う廃業で商店街活動の担い手の減少がリサイクル活動の終息につながっている。

5. 地域とのつながり

- ✓ エココイン事業の導入当時（平成14年）は、商店街のアイディマン（副理事長や青年部長）や事業活動の推進役（女性部や個店店主ら）などの人材が豊富にあり、商店街のリサイクル活動の原動力となっていた。
- ✓ またエココインが商店街と消費者をつなぐ役割を担っていた。

[図] エココインを媒介とした、商店街と消費者のつながり



6. 取り組みによる成果

- ✓ リサイクル活動から端を発したエココイン事業の導入初期は、商店街発の地域コミュニティづくりの走りとなり、商店街組合員同士の結束力が強まるきっかけとなっている。

7. 今後の課題・展望

- ✓ 新大門商店街の成り立ちは、歴史的には旧歓楽街（遊郭街）に当たり、商店街は遊郭街を取り巻く生活圏として形成してきている。
- ✓ 商店街が振興組合化（昭和 58 年）される前身の任意団体「大門発展会」時代から店主の大半が職住環境にあったため店主の居住歴は 50 年超の人が多くいる。
- ✓ エココイン事業の取組当時の商店街役員らの高齢化（60-70 代）に伴い商店街活動からの引退や店舗自体の廃業などが加速しているなか、空き店舗化が進む一方で、職住環境にある廃業店舗とともに健在な居住者（オーナー）が多いことから、新たな空き店舗対策に取り組むことができない状況となっている。
- ✓ 現在の理事長（3 年前に当商店街区域に移り住む）は、商店街で介護情報支援サービス業を営む店主（土屋雅彦氏、50 代）であることから、高齢化の加速する商店街の急務課題として第一に「福祉活動」を掲げ、これまでの「環境活動」は二番手に取り組むよう方針展開を試み、「福祉と環境にやさしい商店街づくり」への変化を目指している。
- ✓ また、商店街組合構成員（79 人、平成 21 年 9 月現在）のうち 2 代目店主（若手組合員）が約 1/3 を占めており、「福祉と環境にやさしい商店街づくり」への変化を目指す商店街活動の担い手として今後期待されるものの、今日の経済状況などが影響し個店経営で手一杯状況にあり、商店街活動への目を向く状況にないのが現状である。
- ✓ 新大門商店街では 27 年来続く夏祭り「大門まつり」は組合員の高齢化が加速するなかでも唯一活気づく事業であるが、現在の理事長が取り組み始めた「大門福祉まつり」（21 年度より実施、11 月開催）では若手組合員の参画兆候が出てきており、平成 10 年代に始まったリサイクル活動やエココイン事業のときのような商店街アイディアマンや‘やる気’ある推進役（組合員）を見出すべく次世代スタッフの養成が課題となっている。